

創業貳百七十年

高岡屋氷見糸うどん

糸饅頭 うどん

高岡屋 氷見糸うどんの歴史

全国でも希少な麺文化の歴史を残し伝える当本舗家伝名物「氷見糸うどん」は江戸中期、宝暦元年（一七五一）当家先祖初代高岡屋弥三右衛門が能登・輪島のそうめん座、門前・総持寺のうどん造りの風習から技術などを採り入れ、氷見の地で編み出したことが始まりと伝えられています。

以来、「糸うどん」は藩政時代に加賀藩他諸藩の命により御用達うどんとして氷見町で取り仕切られ、献上されていたこの逸品は、当本舗で「一糸伝承」とする名物品として孤塁を墨守し、当時からすべての手作りによる製法で今日にまで受け継がれて来しました。

手打ち手延べの独特の製法の糸が作られていく様から「糸うどん」と云われ以後 一子相伝、門外不出として二百七十余年に渡り終始一貫して当時の製法を守り続けています。

献上元 (株)氷見うどん高岡屋本舗

販売店 株式会社 呉 松

TEL 〇七六六一三三〇九四八

FAX 〇七六六一二六一五〇〇三